

一般質問

鈴木 立
議員

○家庭内虐待への対応について

質 幼い船戸結愛ちゃんが5歳にして尊い命を絶つ痛ましい出来事が起きました。電気もない、冬もベランダ、ようやく覚えた平仮名で段ボールに必死にパパ、ママゆるしてください、おねがいゆるしてと何回も嘆願したにもかかわらず、親は全く聞き入れず、望みは断られました。残念至極であります。父は2回も虐待で書類送検されていたにもかかわらず、その詳細を転居先に伝達していなかった失態、危機感のなさ、能力のなさの結果です。家庭内虐待への対応について、市の対策を伺います。

子育て・子ども課長 日頃から保健師や家庭相談員らが家庭や保育所、学校などを訪問したり、関係機関から気になる児童の連絡を受けたりして、情報共有や共通理解、支援や協力体制の強化を図っています。妊娠届の際にカードを作成し、マタニティー教室で出産に向けた支援を行いながら、医療機関との連携や健診結果の内容把握により、妊娠期からのサポートを実施しています。また、出産後も赤ちゃん訪問や各種健診、乳幼児相談等の問診や相談の機会を捉え、虐待の早期発見や予防に努め

るとともに、身近な場所で気軽に相談できる環境づくりを行っていきます。

○上志佐小学校児童数減少対策及び上志佐定住促進住宅建設計画へのこれまでの取り組み経過とその後

の対応について

質 このことについて毎回議会で質問を行っています。市は地区長さんに土地取得の交渉依頼をしておきながら、お粗末なアンケート結果を真に受け、先に実施した652名の尊い署名者の願いを熟慮せず、署名運動発起人に先に説明することなく変更がなされました。定住促進住宅建設前提に土地交渉依頼したのではないのですか。多数の賛同を得るために汗を流された署名運動発起人の方に対し軽率であり、市長、副市長は職務怠慢であります。

市長 土地の相談の手法、順序について、今回は順番が違ったと思っています。一方で、先祖伝来の土地をお譲りいただいたとして、それが十分活用できなかった場合、これも大きな問題になります。現時点では、住宅の需要が見込めないことから、他の方法を模索すべきと考えました。署名をされた皆様の要望は、上志佐小学校の存続を図るために住宅を造っていたきたい、とのことだったと考えます。まずは原点である上志佐小学校をいかに存続させるか、今後

一般質問



川下 議員

○地方防災について

質 今年7月に発生した西日本豪雨災害を受けて、我々は何を考えなければならぬのか、現地の情報を見てみると、行政からの避難に関する指示が出て自分のことのように感じなかったと言う声が聞かれました。また最も犠牲者の多かった倉敷市真備町では、防災無線が流れた時にはもう逃げられなかったとの話もあります。これらのことを考えると、これまでのような行政による防災無線が流れてくるのを待つて逃げるのではなく、自分の情報収集と判断で自助行動を開始するように改めないといけないと考えます。市民が自分自身の命を守るためには、どのようにあるべきか市長の考えを伺います。

市長 行政はしっかり情報分析を行って万全の体制で、空振り恐れず被害を未然に防ぐ対応をしなければなりません。一方で、市民の皆様方にも自ら命を守ってもらう行動は行っています。そういった意識を喚起するための取り組みの一つとして、自主防災組織をそれぞれの地域で設置していただけるよう今後とも働きかけを行いたいと思っています。

質 その自主防災組織は、災害時や災害後において大変重要な役割を果たしますが、最も大切なのは平時における、住民の防災意識を高めることです。行政は、その自主防災組織が住民の防災意識の向上を促すためのサポート的な役目をしなければならぬと考えますが、そのサポートの仕方も含めて市長はどのような形で、市民の命を守っていくと考え

市長 全ての地域に自主防災組織が設置されることが最も望ましいと考えます。市民の皆様方に周知をし、ご理解をいただきながら、災害に強いまちづくりを推し進めていかなければならないと考えています。

○市内小中学校の学習環境について

質 市内小中学校にエアコンの設置について、国の（補助率などの）動向を見ているとのことですが、国費投入のいかにかわらず、学習環境の整備の観点から進めていただきたい。その財源としてふるさと納税を活用するのが望ましいと考えます。市長はどのようにお考えですか。

市長 市内全体の予算のバランス、優先順位等を十分考えながら、一方で、ご指摘のとおり子どもたちの環境はしっかり守らなければならぬことも踏まえながらどのような対応をすべきかしつかり検討して対策をとりたいと考えます。